

トビウオ通信 (H26 第5号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成25年漁期の底びき網漁業の動向》

小型底びき網1種漁業（かけまわし）

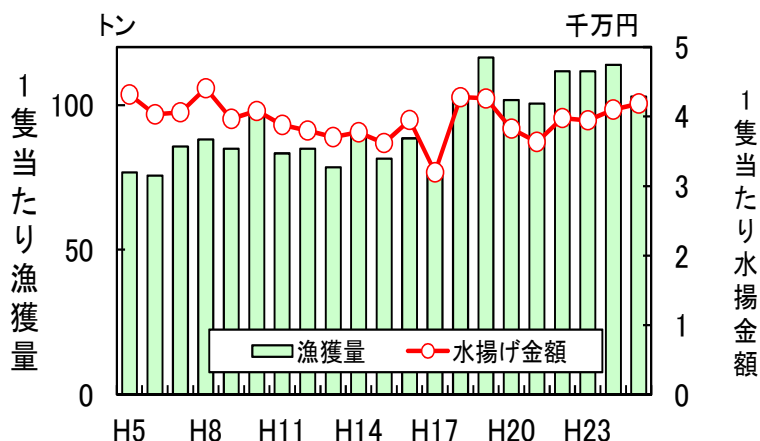


図1 小型底びき網漁業における1隻当たり漁獲量と水揚金額の経年変化

1隻当たり水揚金額、平年を上回る！

島根県の小型底びき網1種漁業（かけまわし）45隻*の平成25年漁期（平成25年9月1日～平成26年5月31日）の総漁獲量は4,632トン、総水揚金額は18億8,366万円でした。1隻当たり漁獲量（以下、CPUE）は102.9トン、水揚金額は4,186万円で、平年を漁獲量では2%、水揚金額では8%上回る水揚げとなりました（過去10ヶ年平均；100.6ト、3,879万円）（図1）。

*当漁業における島根県全体の操業隻数は46隻ですが、統計は45隻分の集計です。

ソウハチ 前年の6割の水揚げ

ソウハチのCPUEは19.8トンで、前年の6割の水揚げに留まりましたが、平年並みの水揚げとなりました。年変動が大きい魚種であり、近年漁場を沖合へ広げつつ漁獲を増やしてきたため、今後の動向に注意する必要があります。一方、ムシガレイのCPUEは3.3トンで平年の7割の水揚げに留まりました。このほか、ヤナギムシガレイのCPUEは1.4トン、メイタガレイのCPUEは1.1トンでした。

ケンサキイカ 前年を大きく下回る

ケンサキイカのCPUEは1.4トンで、前年、平年の3割の水揚げに留まりました。秋漁の不漁が影響し、漁獲量が大きく減少しました。ヤリイカのCPUEは2.1トンで、前年の1.4倍、平年の1.6倍の水揚げとなりました。

アカムツ 平年を上回る、アナゴ類過去最高

アカムツのCPUEは3.3トンで、前年は下回りましたが、平年の1.2倍の水揚げとなりました。キダイのCPUEは5.8トンで平年をわずかに下回りました。ニギスのCPUEは8.8トンで平年の7割、アンコウのCPUEは7.0トンで平年の8割の水揚げに留まりました。このほか、アナゴ類は5.3トンで、平年の1.7倍の水揚げがあり、平成5年以降最高の水揚げとなりました。

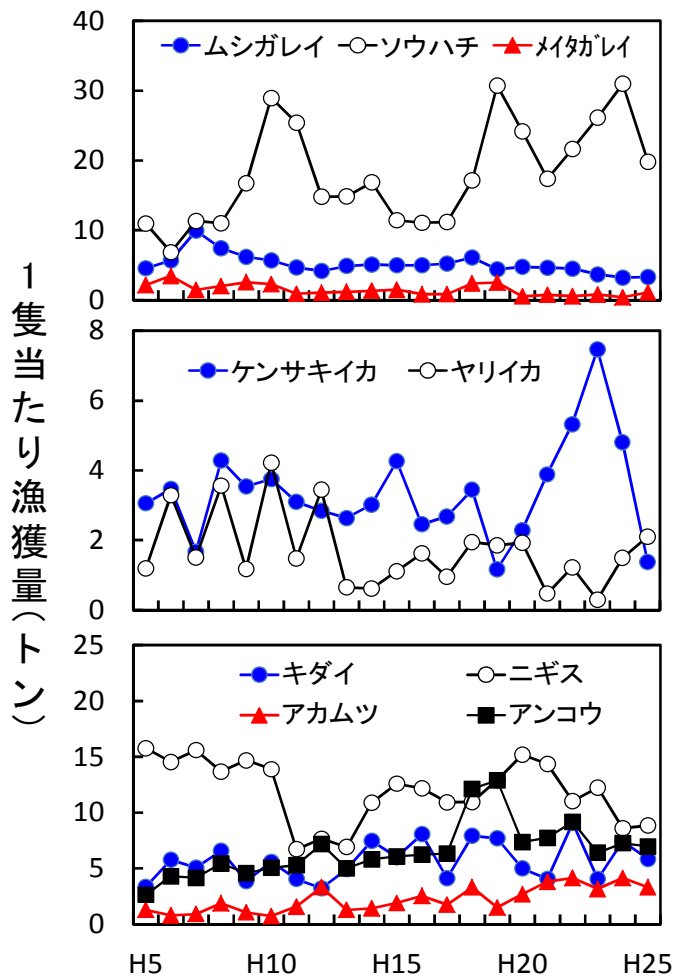


図2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

沖合底びき網漁業(2そうびき) (県西部)

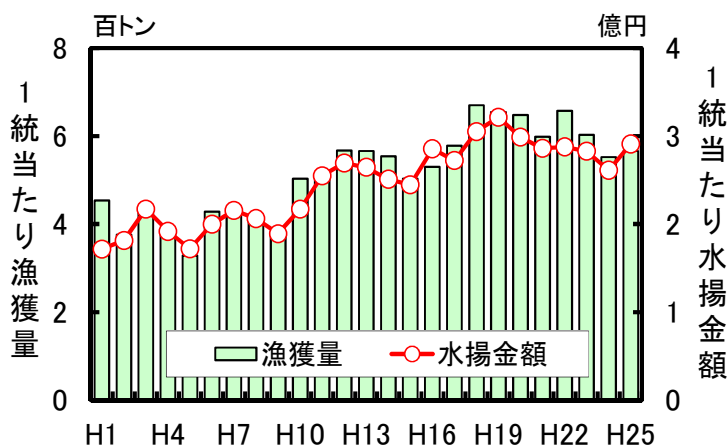


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量・水揚金額の動向

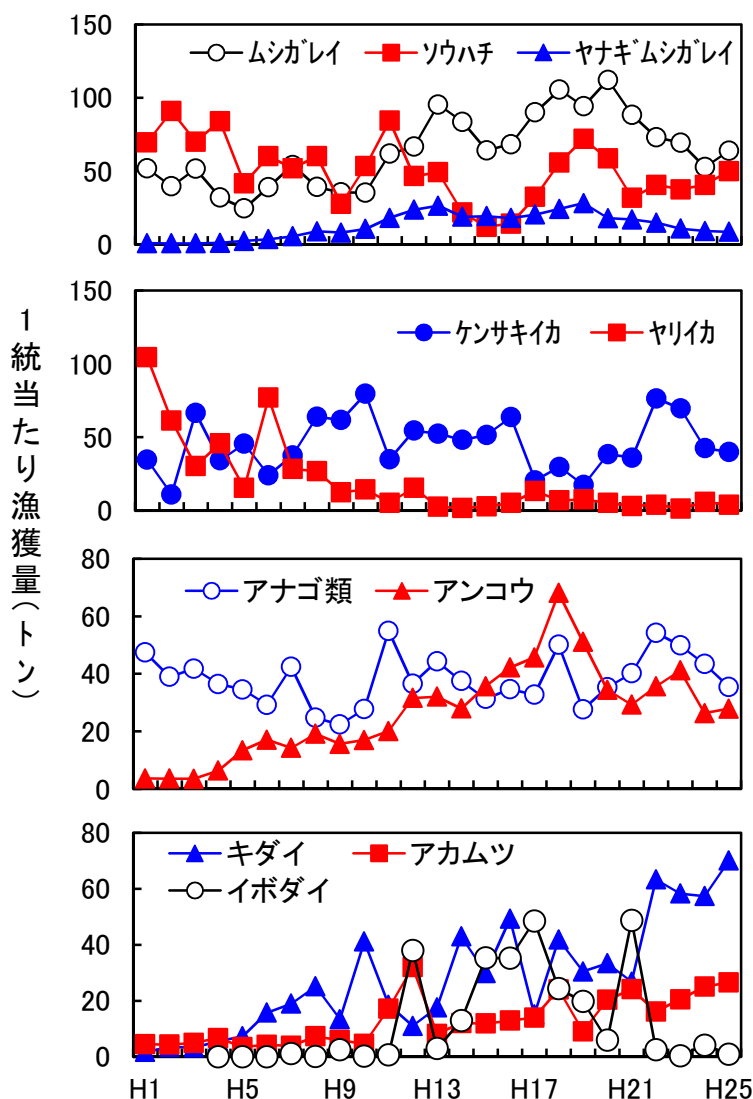


図4 浜田港を基地とする沖合底曳網漁業における主要魚種の動向

カワハギ類 (CPUE : 12 トン) が好調に推移し、平年の1.3倍~2.3倍の水揚げがありました。特にマトウダイは平成元年以降最高の水揚げとなりました。

1 統当たり漁獲量・金額, 平年並み

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業 (操業統数5ヶ統) の平成25年漁期 (平成25年8月16日~26年5月31日) の総漁獲量は2,773トン、総水揚金額は14億2,391万円でした。また、1統当たりの漁獲量は566トン、水揚金額は2億9,091万円で、漁獲量は平年をわずかに下回りましたが、水揚金額は平年並みとなりました (過去10年平均: 599ト、2億8,455万円) (図3)。9、10月は台風の襲来、2月は寒気の影響による避難帰港がありました。漁期を通して概ね順調な操業となりました。

ソウハチ 平年を上回る

主要魚種であるムシガレイのCPUEは64トンで、平年の8割の水揚げに留まりました。一方、ソウハチのCPUEは50トンで、平年の1.3倍の水揚げがありました。また、ヤナギムシガレイのCPUEは9トンで、平年の5割の水揚げに留まりました。ソウハチは秋漁、春漁が順調に推移し、安定した水揚げがありました。

ケンサキイカ 平年わずかに下回る

ケンサキイカのCPUEは40トンで、平年の9割の水揚げに留まりました。秋漁は低調でしたが、春にはまとまった漁が見られました。また、ヤリイカのCPUEは4トンで、平年の7割の水揚げに留まりました。

キダイ好調!

アカムツのCPUEは27トンで、平年の1.5倍の水揚げとなりました。特に小型サイズ (メッキン) は漁期前半好調に推移し、漁獲増の要因となりました。また、キダイのCPUEは70トンで、平年の1.7倍の水揚げとなりました。漁期を通して、小型サイズ (シバ)、中型~大型サイズ (レンコ) が好調に推移し、平成1年以降、最高の値となりました。一方、アナゴ類のCPUEは35トンで、平年の9割の水揚げに留まりました。アンコウのCPUEは28トンで、平年の7割の水揚げに留まりました。

この他、冬季から春季にまとまった水揚げのあるマフグのCPUEは21トンで、平年の7割の水揚げに留まりました。また、マトウダイ (CPUE: 25トン)、